

6月の短歌

① 食後にはゆっくり話しをしたいのに
すぐ席を立つと少年は言う

② 子らに言う言葉いつしかグチになり
説教になり車中静まる

③ 鷺の足の如く指間の広がりに
大地をつかむ子の足猛き

④ ボール突く音猛くなり夕闇に
母の呼ぶ声聞こえぬらしき

⑤ 追いかける夢とは何々と問われる日
寒げに透ける空の青ナリ

⑥ 片手にて食事し片手で書を読み
片足で今日も猫をいたぶる

⑦ “かわいいね” “いい子だね” と言いつ時
わが腕に猫の目の細くなりゆく

渡邊麗加

